

ながおき くら  
長沖 蔵

種 別	国登録有形文化財 建造物
登録年月日	平成 27 年 11 月 17 日
所 在 地	安宅町

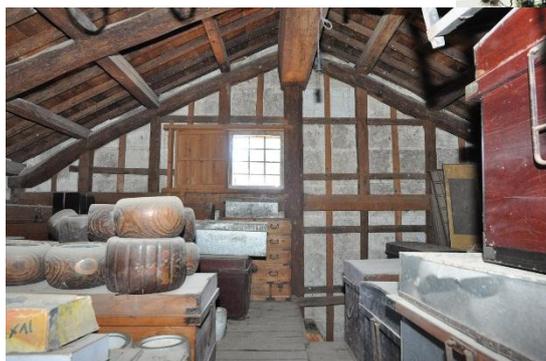
蔵は、長沖の敷地外、安宅住吉神社駐車場の南東に建つ2階建ての土蔵である。もとは安宅の廻船問屋・瀬戸家が建てた蔵で、建築年代は江戸時代末期と伝えられる。瀬戸家は幕末から明治にかけて廻船業を営み、この蔵には船道具が入れられていた。廃業後に使わなくなった蔵を、昭和10年代に長沖が買い取り、道具小屋として使用してきた。

蔵の内部は土壁で左右に仕切られ、蔵の出入り口も左右それぞれに設けられる。入口前には現在下屋が設けられているが、これは後補のものである。蔵の内部には石板が張られている。内壁の石張りは当地ではよく見られる手法で、小松・滝ヶ原<sup>たきがはら</sup>産の石を用いているとみられる。また建築当初は二階は無く、二階の床板などは昭和20年頃に設けたものと判っている。

かつて梯川左岸には、他にも多くの廻船問屋の蔵が建ち並んでいたとされるが、廻船業の衰退とともに次々と取り壊され、現存するのはこの一棟のみである。本件は安宅湊が北前船交易で栄えた時期の景観を今に伝え、内部の石張りなどの当地の特徴を残す貴重な遺構である。



外観（正面）



内観（二階南面）